

Q&A 集 No.2

(Q4 : 回答 A4 を含む) 2025 年 3 月 1 日から公開

Q4 (五霊レベルの難問) 「第 1 巻 第 2 章 7 先祖供養」では、「先祖に感謝しながら霊前に手を合わせる、墓参りをする、先祖に感謝しながら行うことはすべて先祖供養になります。」と書かれています。一方、「第 1 巻 第 7 章 6 願い・祈り」では、「神仏に向かって自分や家族や自国のことを願ってはいけません。それはなぜか？ 理由はこの行為は、周りの人々や国々の幸せに繋がっていないが故に、やがて争い・不協和・無秩序の世界を招く恐れのある反真理的行為そのもので、かつ、このような行為を続けていたのでは、己の霊格（人格）向上を全く促すことがないからです。なので、反真理的行為は本願的ほんがんできな願いが叶わないように摂理が働き、争いと混乱と不幸と悪意に満ちた現在の地上世界（家庭・学校・職場・国家）のような反真理的世界が自動的に創造されてしまいます。」と書かれ、さらに、「第 5 巻 改訂版 第 45 章 5 復活 その 4 ～三角形」でも、「成熟した時代（成就点）を迎えれば、仏壇も位牌も供物も宗教的行事も必要なくなります。なぜなら、先祖供養とは、周りの生命体を幸せにすることであると言う真理が正しく浸透するからです。つまり、先祖の成仏・銀河霊界への道案内は、霊界の銀河霊たちに委ねられ、これまで先祖供養のために使われていたお金は、たとえば、貧しい人たちや被災地の人たちの衣食住のために使われる、成熟した地上世界になるからです。さらに付け加えるならば、己の先祖の成仏・幸せを祈る行為は、霊格が全く向上しない反真理的行為で、このような祈りは反真理であるがゆえに成就しないように摂理が働くことに加え、子孫に我が家よりも周囲の家々の先祖の成仏を優先する真理的祈りを説いてこなかった責任が問われ、悲しいかな、先祖は、お尻ペン

ぺんの世界に落ちることになります。まず、周囲の家々の先祖や無縁なる霊体の成仏・幸せを祈る真理的行為の実践ができるかどうか、神仏から問われている永遠のテーマなのです。今の皆様には理解困難かも知れませんが、このような真理的実践者が大多数を占める状況にならなければ平和な世界が訪れないように真理と摂理・宇宙ができあがっているのです。」と書かれ、矛盾した内容です。

そこで、先祖に感謝しながら霊前に手を合わせたり、墓参りをしたりする行為は、真理的行為なのか、それとも反真理的行為になるのか、どちらなのでしょう？

私 この Q4 を、一種の公案、つまり「皆様が^{たかちゃん}第一霊として降誕した際、銀河霊たちから質問を受けている場面だったら何と回答しますか？」と言う公案と考えて、答えを探してみてください。

ちなみに、難度レベルは、五霊レベルの難問です。

回答（A4）は、約 3 か月後の 2025 年 6 月 1 日頃に、当ホームページ上で公開させていただきます。「頃」と表記したのは、都合によって数日うしろにずれる可能性があるからですので、ご了解くださるようお願いいたします。

なお、デリケートな問題を抱えている質問ですので、皆様に得心して頂けるよう、できるだけ根拠を示したり、具体例を加えたりして、注意を払いながら、かつ「第 1～6 巻」までに記載した文言・知識のみを使ってわかりやすく解説・回答するよう努めます。

では、考えることを楽しんでください。

舍利子^{しゃりし} ちょっと待った！

私 え！ なに？ 舍利子君。

舍利子 Q4 は五霊レベルの難問です。

私 それが？

舍利子 五霊に尋ねたら、「Q4は、今の霊力を総動員しても答えに辿り着くには3か月以上掛かり、我々の地上時代の霊力では回答不可能です」と言っています。となると、人類の皆様が答えに辿り着くとは思えません。

私 では、回答を公開するのは、1年後にする。

舍利子 そうではなくで、回答を速やかに公開してほしいのです。

私 私の公案やQ&Aは、できるだけ自分なりの答えを探求した後に、私の回答を読まれた方が、理解が深まって霊力も身につくと思うのです。

舍利子 うーん。確かにそれは言えますが、決して辿り着けない難問であることを知らずに、一心不乱に考え続けるのは、隕石が頭上に落ちてきても気づかない恐れがあり危険です。

私 大袈裟だなー。

舍利子 孝ちゃんが私にプレゼントしてくれた公案、「好きな娘に翳す花は？」。この公案、マホメット君は直ぐに解けたようですが、私の知恵を遥かに越えた世界に答えが存在しておりましたので、解くのに私は1か月以上掛かりましたよ。しかも、無数に存在する草花の中で、答えが1つであることにも驚かされました。

孝ちゃんの公案は、答えを読めば簡単明瞭ですが解くとなると超難問なのです。このように五霊が直ぐに答えられる公案でも、我々レベルの銀河霊では解くのに数か月を要する場合もあるのです。ですから、五霊が解くのに3か月を要するレベルの難問の答えは、速やかに公開していただきたいのです。

これは、五霊を含めた霊界の銀河霊全員の総意です。この総意を伝え・交渉するために、私はここに来ているのです。

私 なんか、ちょっと大袈裟な話ですが、わかりました。霊界の銀河

霊たちの願いを聞いてあげますので、私の願いも聞いてくれる？

舍利子 対応可能であれば。 で、願いとは？

私 可能な範囲で公開を前倒ししますので、カラオケの無料券をプレゼントしてくれますか？

舍利子 わかりました。6月1日から1か月前倒しで、無料券1枚、2か月前倒しで2枚、3か月前倒しで3枚プレゼントします。

私 では3枚で。

舍利子 了解です。交渉成立ですね。

私 ですね。

私 という^{いきさつ}経緯で、回答を3月1日から公開させていただきます。

なお、自ら答えを探求される方は、1度、当ホームページを離れ、自分なりの答えを得た後に回答を読んでください。

A4 先祖に感謝しながら霊前に手を合わせたり、墓参りをしたりする行為は、^{じんれい}人霊界や惑星霊界では真理的行為となり、恒星霊界以上の世界では反真理的行為となります。ただ、皆様には「反真理的行為」と表現されると、強い違和感を覚えることとしますので、ここでは「真理的行為」を「^{ちゆ}霊格・^{ちゆ}霊力・^{ちゆ}治癒力・^{ちゆ}霊界通信力（以下、単に「^{ちゆ}霊格）」を向上させる行為・想念」、「反真理的行為」を「^{ちゆ}霊格を低下させる行為・想念」と表現した方が理解し易いかも知れませんが、以下、そのように表現して説明を続けます。

「第3巻 第24章 黄金律」で、イエス君は、

*

「霊界は肉体のような物質は存在しない、想念の世界です。

皆様は霊界では霊体の姿をしており、この霊体からは抱いている想念イコール^{ちゆ}霊格に応じた色（オーラ）が発せられています。ここで仮に^{ちゆ}霊格が向上するほど^{せきしよく}霊体が^{とう}赤色、^{おう}橙色、^{りよく}黄色、^{せい}緑色、^{らん}青色、^{らん}藍

色、紫色と粗雑さから精妙な波長色に変化してゆくと強く仮定します（あくまで仮定ですので、これを肌色と読み替えられて仕舞っては滅茶苦茶になり、このような結果を招いた場合、私はその責任が問われ他の銀河霊たちから、お尻ぺんぺんされて仕舞います）。そして今、皆様の霊格はこの中央波長の緑色であるとしします。

皆様が今「善想念」を抱いたとしします。するとこの「善想念」が（野球）ボールのような球体となって霊体から分離して概念的空間に飛び出してゆきます。このボールは「善想念」ですから、霊体の緑色より霊格の高い青色で飛び出してゆきます。霊体には青色のボールと同じ大きさを持った窪みと同じ色の縁取りがその窪みにできます。

同じように「悪想念」を抱くと霊体よりも霊格の低い黄色のボールが概念的空間に飛び出してゆき、霊体にはこれと同じ大きさを持った窪みと同じ色の縁取りがその窪みにできます。

概念的空間には、無数の霊体から飛び出した、想念からなる青色と黄色のボールが無数に浮いています。このボールは、空間をリング状の帯を形成して常に右（or 左）方向に回っているとします（回ることによって、お互いに自身が発したボールが必ず他の霊体に影響を及ぼす環境を創れるのです）。霊体にはこのボールを引き付ける（引）力があって、霊体にできた窪みと同じ縁取りの色をし、かつ同じ大きさのボールが左（or 右）から霊体に近づき合流します。自身の霊体より精妙な波長色のボールが合流すると霊体は喜びと楽しみを感じ、粗雑な波長色のボールが合流すると怒りと哀しみを感じるようになります。

これが、摂理が自動的に働くメカニズムをイメージできるように説明するためのたとえ話です。

より精妙な波長色のボールをたくさんキャッチすると、霊体も精妙な波長色に徐々に染まって霊格が向上してゆきます。逆に粗雑なボー

ルをたくさんキャッチすると、霊体も粗雑な波長色に徐々に染まって霊格が下降してゆきます。

青色の霊体色にまで向上すると、藍色と緑色のボールでキャッチボールする霊界へ昇ってゆくこととなります。逆に黄色の霊体色にまで下降すると、緑色と橙色のボールでキャッチボールする霊界へ落ちてゆくこととなります。

地上世界である物質界の生命体も根本的には霊体ですから、このような摂理のメカニズムが自動的に作用します。

彼が創造した真理と摂理の働きにより、すべての霊体は、本能的に己の霊格向上を目指します。」

*

と語っているように、霊格が低い世界（つまり、人霊界や惑星霊界）では、「善想念（つまり、霊格を向上させる行為・想念）」であっても、高級霊界（恒星霊界以上の世界）では、「悪想念（つまり、霊格を低下させる行為・想念）」となることがあるのです。

よって、人霊界や惑星霊界では、「先祖に感謝しながら霊前に手を合わせる、墓参りをする、先祖に感謝しながら行うことは、すべて先祖供養になり。」、己の霊格を向上させる真理的行為となりますが、恒星霊界以上の世界（皆様は本来銀河霊）では、「我が家よりも周囲の家々の先祖の成仏を優先する祈り・行為が、世界の平和と調和と秩序を形成することに繋がっていることから、こちらの方が、より霊格を向上させる真理的行為」となるのです。

「すべての霊体は、本能的に己の霊格・治癒力の向上（＝進化した生命体・霊体）を目指します。」ので、やがて、地上は「我が家よりも周囲の家々の先祖の成仏を祈る行為」が優先される世界に移行してゆくこととなります。

同じように、創造主や国王などを崇拜すうはいの対象とする行為は、人霊界

と惑星霊界では、霊格を向上させる真理的行為ですが、恒星霊界以上の世界では、霊格（治癒力）を低下させる反真理的行為となります。

恒星霊界では、そもそも国王や独裁者が存在しない成熟した社会が形成されています。

なお、なぜそうなのか？ その理由を正しく理解しておくことが大切です。それは、「第4巻」でバーバネル君を通して語っているように、

*

「創造主は創造主を崇拝する者を相手にしません。それはなぜか？
崇拝する者は、反作用が生み出す摂理によって崇拝すべきでない者たちを見出し、この者たちを差別したり排除したり罵ったりいじめの対象にしたり、終いには戦いを挑んだりして、その結果、平和と調和と秩序が滅茶苦茶に破壊される反真理的世界を創造してしまうからです。

我々銀河霊と創造主とは愛と信頼の絆^{きずな}で結ばれており、それ以上でもそれ以下でもありません。創造主を崇拝の対象にしたり崇拝を推奨^{すいしょう}したりする銀河霊は存在しません。」、

*

と。

これが理由です。

さらに付け加えると、「第6巻 改訂版 第52章 2 Q&A のQ10」で書かれている、

- ② 巨大隕石^{いんせき}落下。
- ③ 不定期に起こる磁場の反転と、これに伴って降り注ぐ宇宙線。
- ④ 太陽の膨張^{ぼうちよう}による地球の高温化。
- ⑤ 2億5千万年後の巨大大陸（アメイジア大陸）の形成による、地殻^{ちかく}変動と異常気象。
- ⑥ アンドロメダ銀河と天の川銀河の衝突^{しょうとつがつたい}合体。

などの難局を乗り越えるためには、霊界の銀河霊たちや宇宙霊たちと通信できるだけの霊力者に進化するため、皆様は、より成熟した地上世界を目指す必要があります。

しかし、しつこいようですが、私は、皆様が絶滅しないよう真理の道を示すだけですから、どのような地上世界を創造するか・目指すかは皆様の自由意思です。

なお、本件はとてもデリケートな問題を抱えている質問ですので、皆様に得心して頂けるよう、できるだけ根拠を示したり、具体例を加えたりして、注意を払いながら、かつ「第1～6巻」までに記載した文言・知識のみを使ってわかりやすく解説・回答するよう努めたつもりです。

しかし、人霊レベルや惑星レベルが正しいと信じている行為、ここで言う「先祖に感謝しながら霊前に手を合わせたり、墓参りをしたりする行為や、創造主や国王などを崇拝の対象とする行為」を、急に恒星霊レベル以上の行為に変えるのは、精神や社会に異常が生じ危険ですので、皆様は、「善行を実践し続けて霊体が恒星霊レベル以上に進化すれば、これらの行為は、恒星霊レベル以上の真理的行為に自然に移行してゆくものなのだ。」言い方を変えると、「下線部の行為よりも、周囲の家々の先祖の成仏を優先する祈りや、何人も崇拝の対象にしないと言う行為の方が、^{すがすが}清々しいと感じられるようになる。」と理解してくださいとよろしいかと思えます。

しつこいようですが、どのような行為を選択するか、あるいはどのような社会を目指すかは、皆様の自由意思です。

そして、この「虹の掛け橋」は、銀河霊界大学院博士課程最高難度クラスの霊体を対象に語っている内容ですので、ご理解ください。

最後に注意すべき事項をお話しします。

それは「第6巻」で語っているように

*

先祖に感謝しながら霊前に手を合わせたり、墓参りをしたりしている人たちや、創造主や国王などを崇拜の対象にしている人たちに向かって、「そのような行為は、惑星霊界や人霊界では、霊格・霊力を向上させる行為であっても、恒星霊界以上の世界では、むしろ霊格・霊力を下げる行為なのです。」と言うのは、お手のできていない飢えたライオンに近づきお手を求めたり、真理と摂理に無知な（銃を構えた or 狂氣的な）兵士・独裁者・国王・民衆・マスメディアに近づいて「戦争を止めるよう」語り掛けたりするようなもので自殺行為です。

*

命を懸けて法を説けば必ず人と衝突し争いが生まれます。真理は自然に広がってゆくものです。ですから、人と衝突してまで法を説くことはないのです。求められたら、「大きい方、好ましい方、楽な方を人に譲りましょう。そうすれば太陽のように輝いた人生を送ることができます」と、説く程度に留めましょう。完全性を求めた急激な変化は、逆に息苦しい反真理的世界を創ってしまいますから。

それに後述しますが、「絶滅＝終わり」ではありません。皆様には1兆の1兆乗年よりも永い寿命が保証されておりますので、余暇を楽しみながら、そしてユーモアの心を持ちながら、第一霊界に続く螺旋状の階段を、マイペースで登ってゆきましょう。

回答は以上です。